

**全国外大連携プログラム**

**通訳ボランティア  
育成セミナー**

**報告書**

## **主催**

全国外大連合

## **開催日程**

2015年8月24日（月）～27日（木）

## **開催場所**

神田外語大学（千葉県）

## **後援**

文部科学省 外務省 観光庁 千葉県

2017札幌アジア冬季大会組織委員会

公益財団法人 ラグビーワールドカップ2019組織委員会

公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会 日本パラリンピック委員会

NPO法人 日本オリンピック・アカデミー

一般社団法人 全国外国語教育振興協会

## **協力**

公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

一般社団法人 ホスピタリティ機構

## 目次

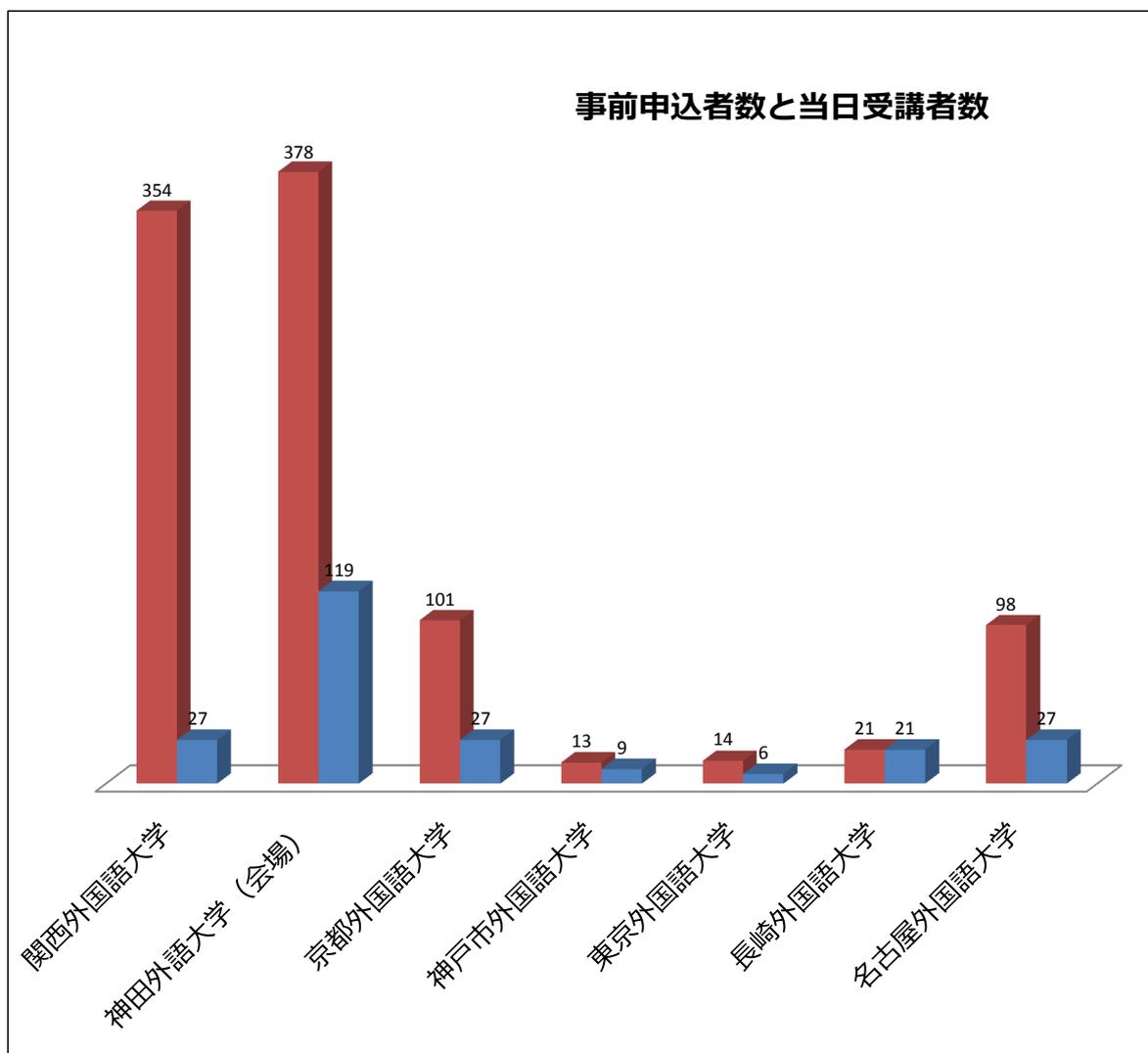
1. セミナー概要	・・・p.3
1-1 大学別の事前申込者数と受講者数	
1-2 学年別受講者数	
1-3 男女別受講者数	
1-4 対応可能言語	
2. 学生の参加動機	・・・p.6
2-1 参加目的	
2-2 参加へのきっかけ	
3. 参加後の自己評価	・・・p.7
アンケートによる集計	
セミナーの様子	
4. 各講義内容について	・・・p.9
講義名	
講師名	
経歴	
講座内容	
受講者からの感想	
講義の写真	
5. セミナーの様子（写真）	・・・p.25
6. メディア露出事例	・・・別紙参照

# 1. セミナー概要

## 1-1 大学別の事前申込者数と受講者数

単位：人

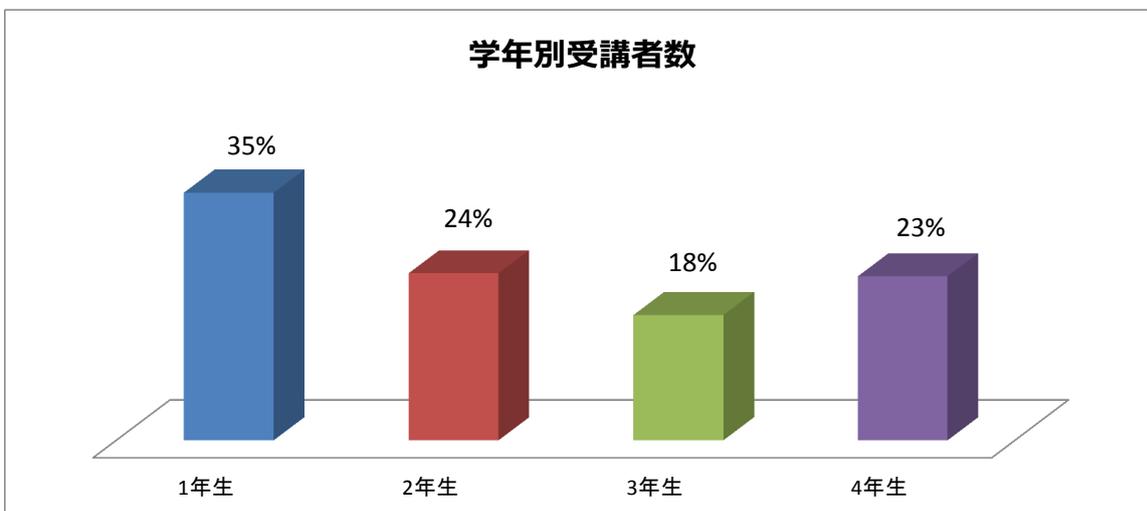
大学名	事前申込者数	募集枠	受講予定者数 (開催前日時点)	当日受講者数	バンク登録者数
関西外国語大学	354	27	27	27	27
神田外国語大学 (会場)	378	123	122	119	106
京都外国語大学	101	27	27	27	27
神戸市外国語大学	13	9	9	9	9
東京外国語大学	14	6	6	6	2
長崎外国語大学	21	21	21	21	20
名古屋外国語大学	98	27	27	27	26
合計	979	240	239	236	217



1-2 学年別受講者数

単位：人

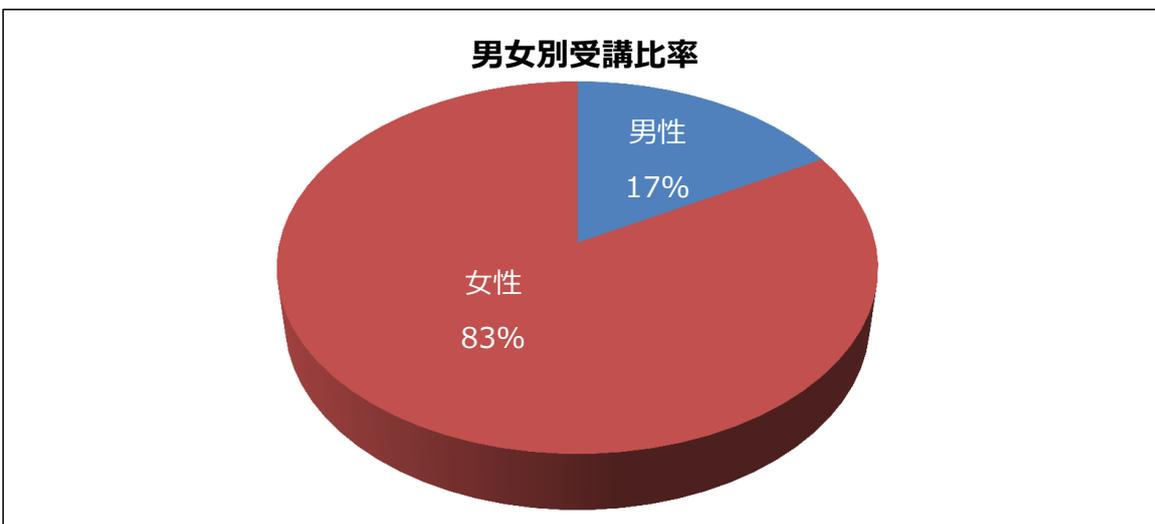
大学名	BASICコース		INTERMEDIATEコース		大学別計
	1年生	2年生	3年生	4年生	
関西外国語大学	3	4	8	12	27
神田外国語大学	48	28	21	22	119
京都外国語大学	7	11	3	6	27
神戸市外国語大学	5	1	3	0	9
東京外国語大学	0	3	1	2	6
長崎外国語大学	15	3	3	0	21
名古屋外国語大学	5	6	3	13	27
学年別計	83	56	42	55	236



1-3 男女別受講者数

単位：人

大学名	男性	女性	大学別計
関西外国語大学	2	25	27
神田外国語大学	27	92	119
京都外国語大学	5	22	27
神戸市外国語大学	0	9	9
東京外国語大学	0	6	6
長崎外国語大学	4	17	21
名古屋外国語大学	2	25	27
男女別計	40	196	236



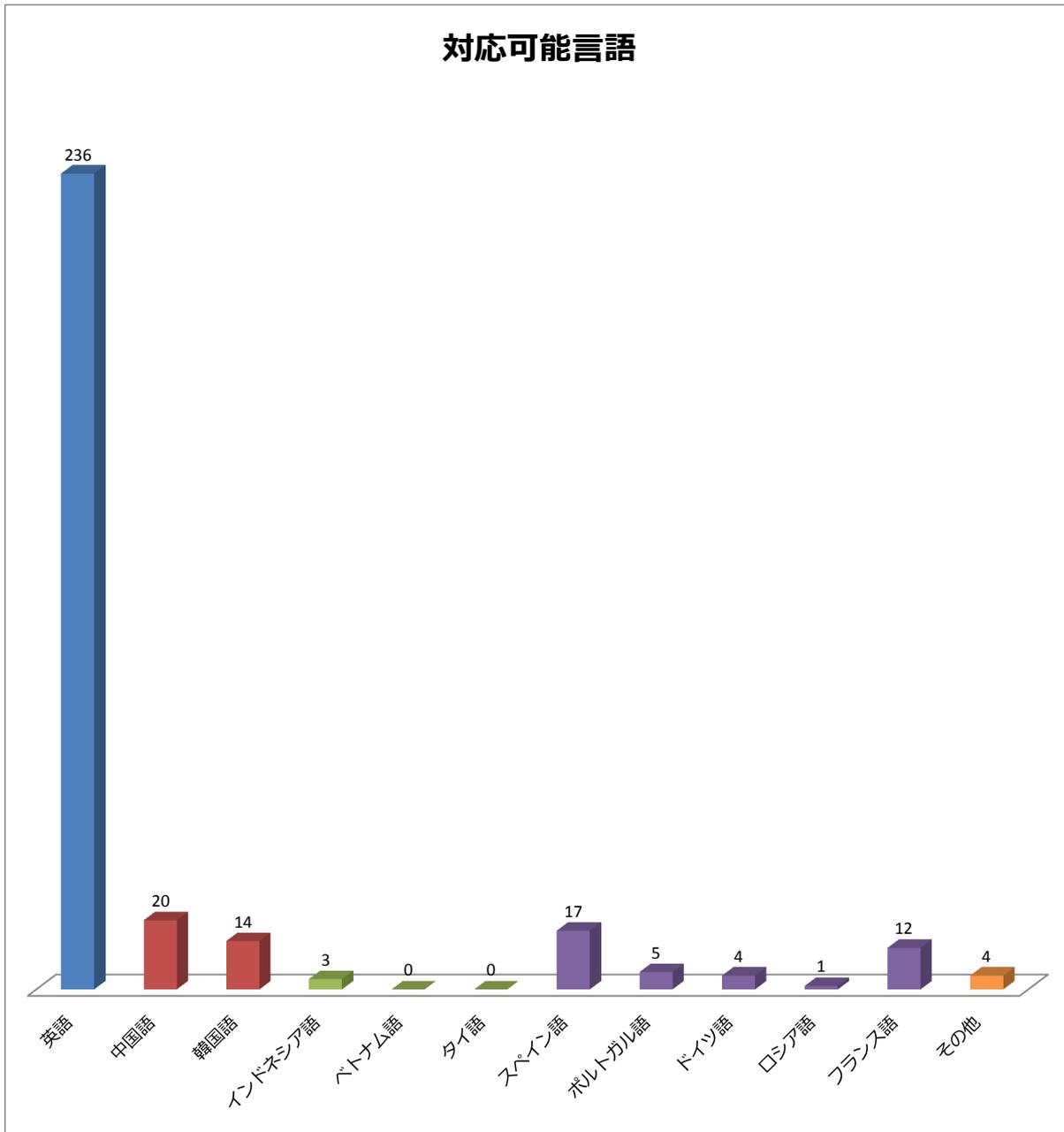
1-4 対応可能言語

単位：人

英語	中国語	韓国語	インドネシア語	ベトナム語	タイ語
236	20	14	3	0	0
スペイン語	ポルトガル語	ドイツ語	ロシア語	フランス語	その他
17	5	4	1	12	4

※当日受講者の対応可能言語内訳を示す。

※英語は参加者全員が対応可能な言語。



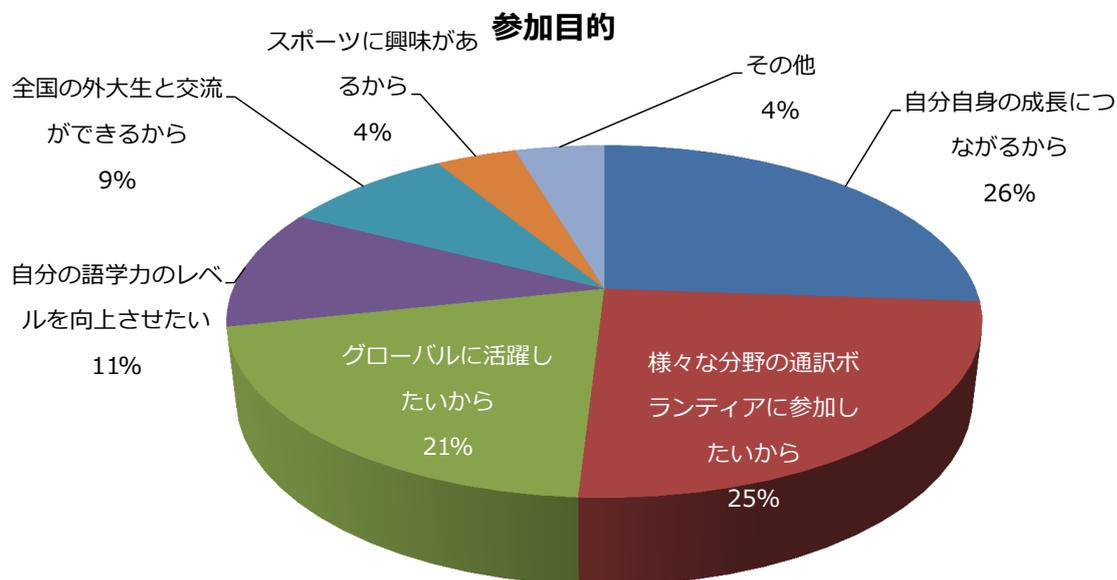
## 2. 学生の参加動機

### 2-1 参加目的

単位：人

参加目的	回答数
自分自身の成長につながるから	57
様々な分野の通訳ボランティアに参加したいから	54
グローバルに活躍したいから	45
自分の語学力のレベルを向上させたい	24
全国の外大生と交流ができるから	19
スポーツに興味があるから	9
その他	10

回答者数：218人

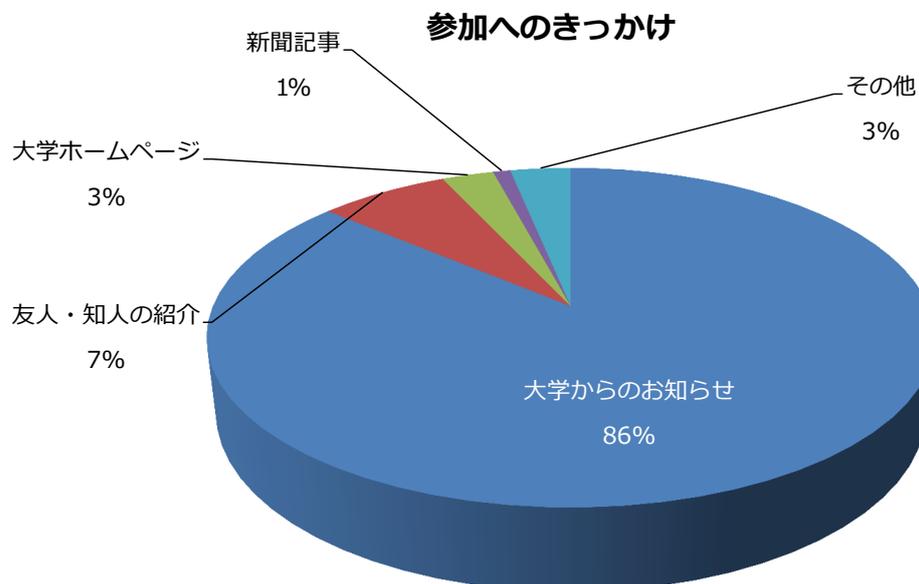


### 2-2 参加へのきっかけ

単位：人

参加へのきっかけ	回答数
大学からのお知らせ	188
友人・知人の紹介	15
大学ホームページ	6
新聞記事	2
その他	7

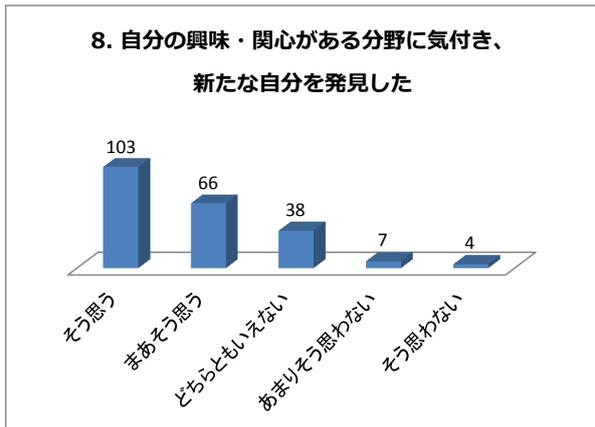
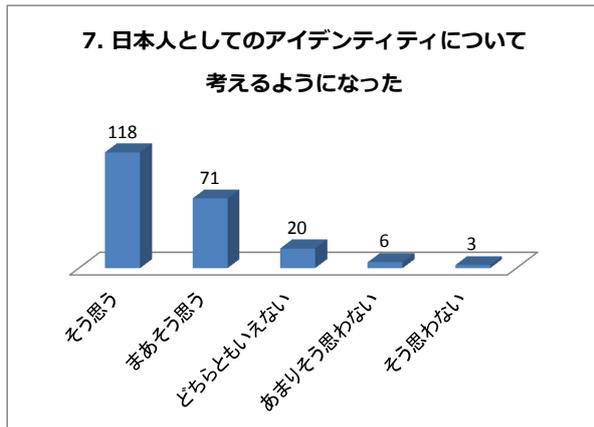
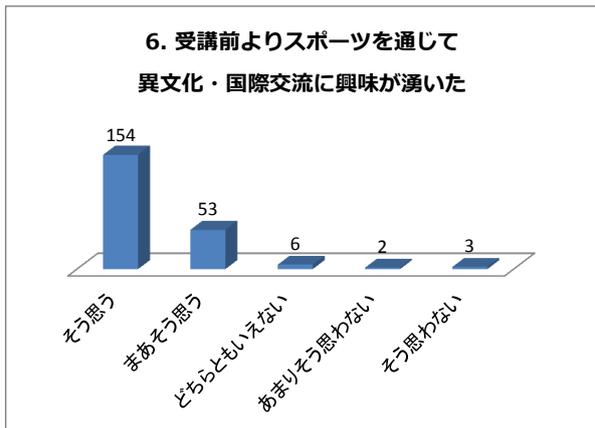
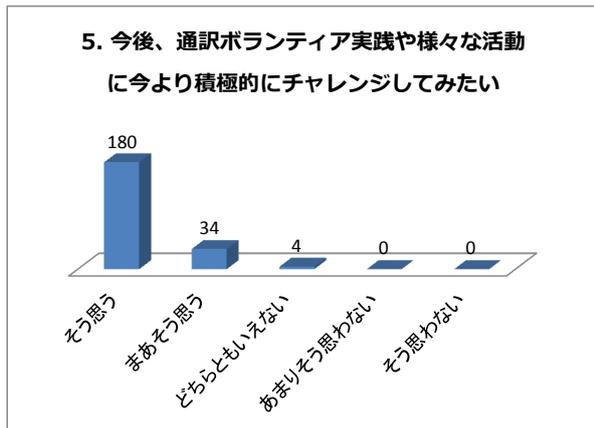
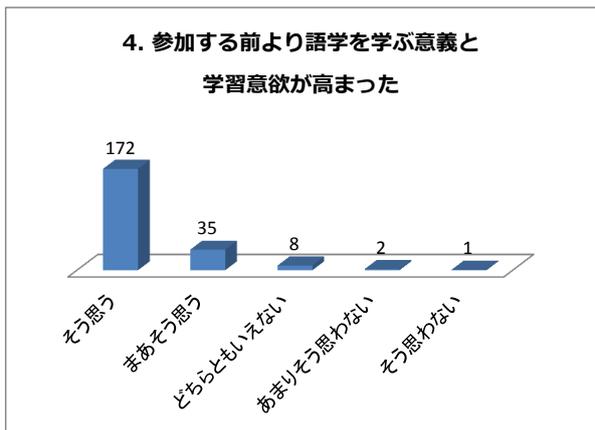
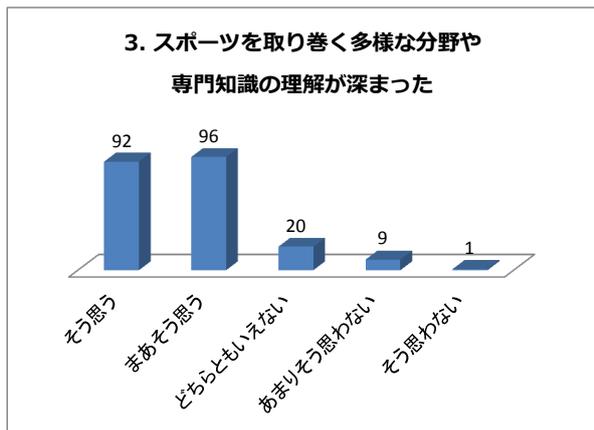
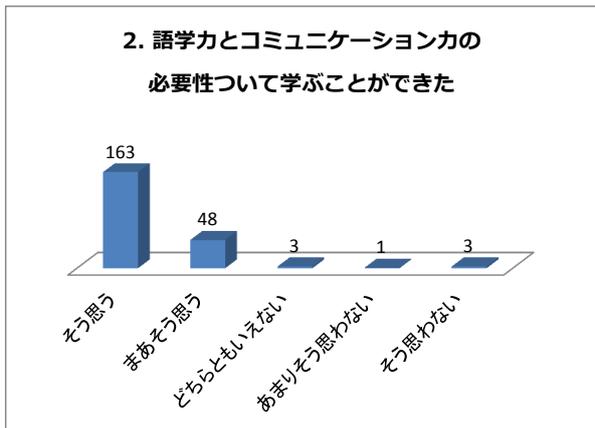
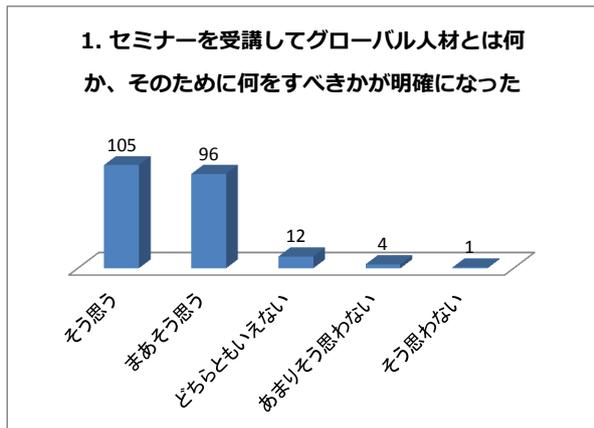
回答者数：218人



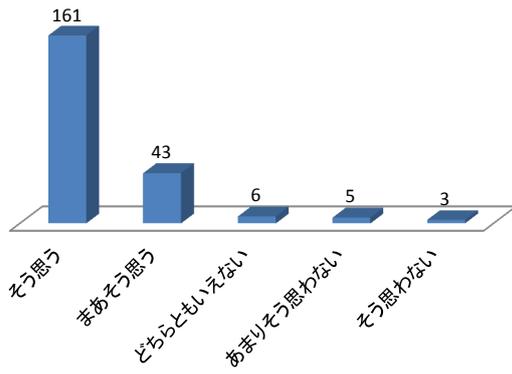
### 3. 参加後の自己評価

アンケートによる集計（単位：人）

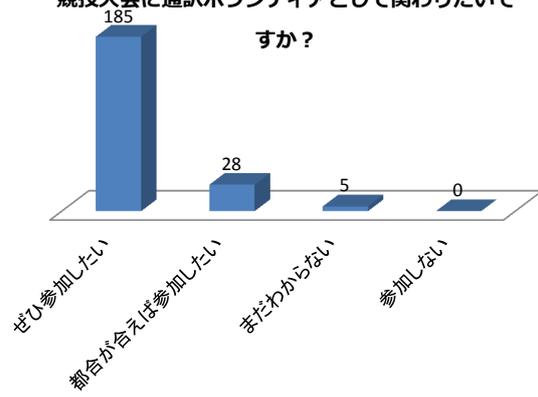
回答者数：218人



9. このセミナーを受講して満足している



10. 将来東京2020オリンピックパラリンピック  
競技大会に通訳ボランティアとして関わりたいで  
すか？



#### 4. 各講義内容について

【8/24(月)】 基調講演	
講師名	上野 裕一先生
経歴	ラグビーワールドカップ2019委員会 委員長 アジアラグビーフットボール協会理事/EXCOメンバー 流通経済大学スポーツ健康科学学部長、教授（医学博士）
講座内容	ラグビーワールドカップ2019に向けて
受講者からの感想	印象的であったのは、ラグビーのworld cupがラグビーの発祥国周辺で行われることは2019年日本戦が初めてであり、これは日本を台頭にアジアでラグビー人口を増やそうとする試みの一歩であるということです。また、日本から他国に派遣される優秀なレフェリーでも英語力がなくなかなか日本ラグビー界のグローバル化が進まないということをお聞きしました。このworld cupやオリンピックに向けた日本の早急の課題は、今後英語という世界言語に対する障壁をなくすことであると感じました。（関西外国語大学、4年、女性）
	通訳ボランティア育成セミナーが始まり、一つ目の基調講演を聞いてまず感じたことは、自分はラグビーについて無知であったことと、ラグビーのすばらしさに気付けたということである。（神田外国語大学、2年、男性）
	No Sideやフェアプレイの精神に基づき、文化や習慣の違いを越えて多様な人々が友好を深めるチャンスをラグビーやその他のスポーツを通して私たちは得ることができます。多文化の理解力や順応性を養い、心身両面の成長に直結するスポーツが持つ影響力の大きさを痛感した講義でした。（京都外国語大学、4年、女性）
	ラグビーをあまり観たことがなく、あってもニュージーランドチームの踊りぐらいだったので、初めて知ることばかりでした。ラグビーの世界大会が2019年にあることも知らずにいたので今回あるとわかり良かったです。講義を通し、その大会を日本で行う意味を知りました。（神戸市外国語大学、3年、女性）
	アジアの一国として日本のラグビー界に対する責任、そしてアジアで広めていこうという取り組みに自分も協力したいと感ずることができました。一つのスポーツを通してこんなにも国と国が自由につながることが素晴らしいことだと気づきました。（東京外国語大学、2年、女性）
	ラグビーのお話をしていただき、試合中は敵同士でも終わったら友達になること、またスポーツには世界と未来を変える力があることを学びました。（長崎外国語大学、2年、女性）
「スポーツには、世界と未来を変える力がある。」という上野先生の言葉がとても印象に残りました。 みんなのためのラグビー。 スポーツをひとつのきっかけとして外国の方々とながることができるのはとても素敵だなと感じました。（名古屋外国語大学3年、女性）	
講義の写真	

【8/24(月)】スポーツ文化・教養①	
講師名	真田 久先生
経歴	2008年筑波大学体育学系教授 2010年筑波大学オリンピック教育プラットフォーム事務局長2012年同大学体育専門学群長 2014年つくば国際スポーツアカデミー（TIAS）アカデミー長 つくば国際スポーツアカデミー（TIAS）アカデミー長 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会参与
講座内容	今日のオリンピックは古代オリンピックをモデルにした競技会であり、オリンピックの理念を広めるムーブメントの一つでもある。そのことを前提に次のことを学習する。 ・古代オリンピックはいつ始まり、どのような競技が行われたのか ・クーベルタンは、どのような思いで復活したのか。 ・今日に至るまで、オリンピックはどのような危機が起こり、それを克服してきたのだろうか。
受講者からの感想	オリンピックの歴史が深いことは知っていたが、紀元前776年まで遡るとは驚きであった。もともと、戦争の和解という平和的目的を持ったイベントであったが、今日でもその要素を持つイベントであると思う。実際に、各国の政治事情や宗教は持ち込まず、互いの文化を尊重し合いながら、他国の選手がしっかりとスポーツマンシップを守りながら競い合っているのを見ると、国レベルの問題と個人レベルの問題は全く別であることを思い知らされる。（関西外国語大学、3年、女性）
	今まではオリンピックのボランティアやりたい！ただ漠然としたただそれだけの思いでしたしかしながら、この授業を受けて、オリンピックの歴史や、オリンピックの目指すところを深く知ることで、オリンピックは世界の多様性を認め合う上でとても重要なものである事を学びました。これからもっとオリンピックの背景を知識としてしっかりと身につけた上で、東京オリンピック、パラリンピックのボランティアに参加したいと思いました。（神田外国語大学、1年、女性）
	そもそも近代オリンピックの前に古代オリンピックが存在していたこと、それが1200年も続いていたと考えると一つの催しが何千年も受け継がれていくことは何か思い入れが無いとそう簡単には何千年も続けられないのすごいことだと思います。スポーツって人間にそれなりに意味のあるものなんだと感じました。（京都外国語大学、2年、女性）
	このセミナーに参加したのは、オリンピックで通訳として働きたいという気持ちがあったからですが、オリンピックに関する知識はほぼなかったことにこの講義を受けて気づきました。オリンピックに従事したい者として、オリンピックに関する歴史を知ることが必要だと感じました。（神戸市外国語大学、1年、女性）
	特に印象的だったのは、中学校の柔道で習った嘉納治五郎のエピソードです。「アジアでやってこそ、、、」というその言葉が印象的で、まさか自分の知っている人物が日本のオリンピックに貢献していたとは思いませんでした。世界一体となって行われるオリンピックの意義というものを、もう一度考えさせられる機会になったと思います。（東京外国語大学、4年、女性）
	古代・現代オリンピックの始まりや最初に行われた競技はスポーツ競技ではなく、吹奏競技であるということを知りました。また、オリンピック・パラリンピックの理念として海外と交流をすることで国同士の友好な関係を築けると学びました。私たちが東京オリンピックのボランティアになるにはそういった理念を理解すべきであり、そういった人達を増やしていくべきだと思いました。（長崎外国語大学、1年、女性）
この講義も内容が初めて知ることばかりだったのでとても印象に残りました。まず今までなんとなく見てきたオリンピックが古代を合わせると1300年以上も続いていたことに驚きました。最初の競技がスポーツではなく音楽だったことは興味深かったです。（名古屋外国語大学、4年、女性）	
講義の写真	

【8/24(月)】スポーツ文化・教養②	
講師名	中森 邦男先生、徳増 浩司先生
経歴	<p>◎中森 邦男先生 公益財団法人日本障がい者スポーツ協会強化部長、日本パラリンピック委員会事務局長、公益財団法人東京2020オリパラ組織委員会 理事、日本女子体育大学 非常勤講師</p> <p>◎徳増 浩司先生 日本ラグビーフットボール協会国際委員長、ラグビーワールドカップ組織委員会事務局長 公益財団法人日本ラグビーフットボール協会理事、国際組織ワールドラグビー理事</p>
講座内容	<p>◎中森 邦男先生 車いすスポーツから始まったパラリンピックの発祥から現在について下記内容を中心に解説する。現在パラリンピック開催がオリンピック招致の中に含まれたことで、パラリンピック主催国を中心に選手強化が一段と向上／2014年4月障がい者スポーツの政府所管が厚生労働省から文部科学省に移管され、日本の障がい者スポーツ振興の加速化／東京2020オリンピック・パラリンピックを迎え日本パラリンピック委員会は金メダル22個を目標に掲げ、選手強化の加速</p> <p>◎徳増 浩司先生 2019年秋には、ラグビーワールドカップがやって来ます！世界3大スポーツ大会のひとつであるラグビーワールドカップは、アジアでは初の開催です。ラグビーワールドカップの開催意義は？そして、日本開催によって、どんなことが私たちにもたらされるのか、そのために今からどんな準備をしたらいいのか・・・当日はそういうお話をさせていただきます。この講義が終わったら、参加者全員が「ラグビーワールドカップ博士」になっているはずですよ！</p>
受講者からの感想	<p>中森先生にはパラリンピックについて講義をしてもらいましたが、自分がどれだけパラリンピックについて、あるいは体の不自由な人たちについて普段考えていないかを知ることになりました。障がいの種類について、またそれによって出場する競技が決まっていることにも触れられたので、パラリンピックについてもっと理解を深めたいという気持ちが出てきました。(関西外国語大学、4年、女性)</p> <p>身体・知的・精神の3つに大きく分けられる障害はさらに細かく種類が分けられるということ、全ての障害に対してオリンピックの競技種目が設けられているわけではないということ。これは全く知らないことでした。きっとあらゆる障害を抱えている人がオリンピックの出場を夢見ていると思います。将来、そのような人たちがなんらかの競技に参加できるようになればいいと思いますし、そのサポートや企画に自分自身が参加できるようになりたいと感じます。また、オリンピック自体や、専門種目のルールやワードを学ぶのと同時に、障害のことについても学んでいこうと考えています。(神田外国語大学、1年、女性)</p> <p>徳増先生:ラグビーワールドカップが自国で行われることがどれだけ凄いことなのか分かった。自国で開催されることで試合を見に日本にくるついでに長期滞在し観光する外国人が増え、相乗効果で日本の景気をあげるチャンスであるのでできるのならボランティアとしてワールドカップに参加し最高のおもてなしをしたい。(京都外国語大学、1年、女性)</p> <p>徳増先生の講演では、ラグビーオリンピックによる地域の活性化について学びました。オリンピックと地域の連携は環境問題をも巻き込むことができると聞いて、新たな可能性を感じられました。東京オリンピックでは日本にどんな変化をもたらすのか楽しみです。(神戸市外国語大学、2年、女性)</p> <p>パラリンピックと聞いたら昔からあるものだと考えていた私にとって、1964年の東京オリンピックと関係していたことを知り、驚きました。通訳として活躍したいと考えていた私ですが、パラリンピックでの通訳について具体的にイメージを作ることなく参加していた面があるのではないかと思います。ただ通訳をするといっても、まずは選手や相手の状況からしっかりと把握しなければならぬことを実感しました。自分の地元熊谷でもラグビーの開催招致に力を入れていたので、開催が決定し自分にもたくさんのチャンスがあることを知れました。是非なまの世界ラグビーというものに触れてみたいと感じました。(東京外国語大学、2年、女性)</p> <p>中森先生は障がい者スポーツを中心として活動しておりパラリンピックについて話をされていた講演でした。実際障がい者スポーツにはどんなスポーツがあるかなどを学びどれほど大変なのかを知りとても素晴らしい講演でした。徳増先生はラグビー会の理事をしている方で2019年にあるラグビーW杯の話などをしてくださいました。選手は日本を飛び回り試合をするため大変ではないかという質問に対して真剣にわかりやすくお答えください今まで知らなかったラグビーのことを知ることができました。(長崎外国語大学、1年、女性)</p> <p>この講義では、パラリンピック、ラグビーについて理解をすることができた。まず、パラリンピックはオリンピックに比べると、かなり注目度が下がるであろう。しかし、障害者が残されたものを最大に活かし、それによって多くの効果を生み出すことがわかった。パラリンピック、ラグビーのいずれもこれまでとりわけ興味を抱いていなかったが、この講義を通して興味関心を持つことができた。(名古屋外国語大学、4年、男性)</p>
講義の写真	

【8/24(月)】おもてなし講座	
講師名	江上 いずみ先生
経歴	筑波大学附属高校を経て慶應義塾大学法学部法律学科卒業。日本航空客室乗務員として30年に渡り国際線・国内線に乗務。18,525時間を乗務して2013年 7月に退社。同年11月 Global Manner Springs 設立。2014年より筑波大学にて「グローバルマナー概論」講義。2015年4月同大学客員教授就任。
講座内容	日本の文化「おもてなしの心」とは何か、海外ではどのように紹介されているかを知る。またJAL・ANAの現役・OG客室乗務員に実技指導を仰ぎながら、「おもてなし」の具体的な表現方法を学ぶ。30名1グループとして外国人への接遇と国際人としてのグローバルマナーを身につける。2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、開催国日本のホスト役として如何に行動すべきかを実技を交えて体得する。
受講生からの感想	今や日本人としてわきまえておかなければならない「おもてなし」を定義で改めてその中身を確認し、実践する際の心構えを、先生のエピソードも混ぜたお話はとても明解で理解しやすかったです。最後に、2020年へ向かう飛行機に乗せていただき、機内アナウンスは、ずっと自分の心にとって何度も思い返そうと思える言葉がつまっていてとても素敵でした。また、意識が高まりました。(関西外国語大学、1年、女性)
	私は将来的に中国語を使って日本を紹介できるような仕事に就きたいと思っていて、もちろんそのためには「おもてなし」の心は欠かせません。ですので、江上先生のおもてなし講座は特に興味を持って臨みました。「視覚」「聴覚」二つの面から、相手に好感を持ってもらえるような振る舞いを意識していきたいと思います。(京都外国語大学、2年、女性)
	はじめはなぜ通訳のセミナーでこのようなものがあるのか、不思議に思っていました。実践的な講義で、いざ自分がやってみると難しさを感じました。人と人とを繋げる通訳者として、相手に心地いいと思ってもらえるようにマナーや心配りをしっかりすることの重要性を考えさせられました。by Name効果は実生活ですぐに実践できることなので、普段からひとのなまえで呼ぶようにしたり、おもてなしの心をもって接するように心掛けていきたいと思います。(神戸市外国語大学、1年、女性)
	第一印象は相手の自分に対する認識に大きく関わるので、少しでも良くするためにどんなことが必要なのかを細かく教えていただいた。英語では訳せない日本人のおもてなし精神と言い回しで相手への気持ちの伝わり方が大きく違うことについての解説は私にとって考えられる内容だった。(神田外国語大学、1年、女性)
	私は今まで、おもてなしは表情や態度、言葉遣いのことだと思っていました。しかし、それに加えてby name 効果や握手の仕方、アイコンタクトなど細部にまで気を配るのが日本のおもてなしであると初めて知りました。これからさらに外国人の訪日が期待されるため、もっと深く勉強し、ホテル等でのおもてなしの体験をしてみたいと思いました。日本特有のおもてなしの心を丁寧に教えていただき、とても勉強になりました。(長崎外国語大学、1年、女性)
	おもてなしとサービスの違いは何か？ということから、実際に外国の方におもてなしの心を理解してもらうためには？好感の持てる接し方は？といったところまで、実際に江上先生がJALのCA時代に経験したお話や、実践を交えての講義はとても楽しく興味深かったです。背筋をピシッと、聞き取りやすい声のトーンと話し方をされているのに、硬すぎる話ではなく、随所にユーモアのある講義でわかりやすかったです。対外国人だけではなく日本の中だけでも今すぐ使えるコミュニケーションの取り方について学べて、とても勉強になりました。講師の皆さんお綺麗で自分もあんな風になりたい！と思いました。(東京外国語大学、4年、女性)
おもてなしとは英語では、ホスピタリティーにあたり、それは表裏のない心で、見返りを求めない対応である。次に、第一印象を高める5原則やグローバルな挨拶について学んだ。江上先生のキャビンアテンダント時代のリアルなお話も伺え参考になった。私がこの講義で一番印象に残ったことは、「By Nameの効果」である。私自身のこれまでの経験でも相手の名前を呼ぶことにより、新密度が増すといったことはあったが、やはりその効果について改めて大切であると感じた。通訳ボランティアやそれ以外でも是非、実践していきたい。(名古屋外国語大学、4年、男)	
講義の写真	

【8/25(火)】日本文化の理解	
講師名	Andrew Kamei Dyche (アンドリュー・カメイ・ダイチ) 先生
経歴	ブリテッシュ・コロンビア大学歴史研究科修士課程修了、南カリフォルニア大学歴史研究科博士課程。国際交流基金日本研究フェロー、上智大学、芝浦工業大学非常勤講師を経て神田外語大学グローバル・コミュニケーション研究所特任講師、日本研究所研究員。専門は日本近現代史。
講座内容	知っているようで意外と知らない日本の文化や歴史。大昔から伝わる日本の伝統だと思っていたことが意外と新しいものだったり、日本独自の文化と思っていたことの原点が外国だったり、またその逆もかり。英語で日本文化や歴史を学ぶと、言葉の違いだけではなく、「日本」という国や「日本語」という枠から外れた考え方や思いがけない一面が生まれてきます。アタリマエ、から一歩踏み込んだ新しい日本の扉、開けてみませんか。
受講生からの感想	この講義では、日本の文化や歴史を英語で学ぶことで、国際的な視点を持って日本を見ることが出来るようになるということ学んだ。また、文化は国境を越えて他の国へ移動する時Cultural Adoptionという現象が起こり、2つの文化の融合が起こるという理論に興味深かった。この理論によると、日本の文化は時に他の文化と融合されて違う形になってしまった状態で他国で広まっている可能性を認めるものである。私は、より本当の日本文化を世界に普及させるために、2020年東京オリンピックは絶好の機会であると考えている。(関西外国語大学、4年、女性)
	まず日本人の私たちよりも外国出身の先生の方が日本文化を知っていることに驚きました。日本人としてなかなか恥ずかしいことであるなと思いました。話を聞いていると日本の文化は髪型や服装、音楽など西洋の文化に影響されている部分が多いという風に感じました。今でも外大に通っている私たちにとって洋楽や海外のモデルさんを真似したファッションは当たり前ものとなっています。それに対して日本語からきた英単語など、日本が西洋に影響を与えていることもありました。歴史を知っているだけでも他国の人との仲はより一層深まるんだなという風に感じました。(京都外国語大学、2年、女性)
	この講義で学んだことは日本の文化を違う観点から学ぶことによって日本の文化とはどんなものかを再認識し、新たな視点を得ることが出来るというものでした。実際、外国人が思い描いている日本と、私たちが実際に生活している日本とは大きく異なる部分が多くあります。日本について意欲的に学んでいる外国人のほうが、私たちよりもはるかに知識を持っている場合もたくさんあります。これからますます多くの外国人が日本を訪れるようになる今、わたし達はもう一度自国について知り、向き合う必要があると考えさせられた講義でした。(神戸市外国語大学、3年、女性)
	初めて日本文化について英語で授業を受けてみて、全く今までとは違った観点から日本文化を見つめなおすことができました。単語の表現一つでも今までに考えもしなかったような表現がなされていて、まさに目からうろこの連続でした。そして外から日本を見直す経験ができたことから、更に日本の文化や歴史、社会について勉強してみようと思いました。そしてその際には日本語と英語、両方の言語を用いて勉強してみよう決めました。そうすることにより多角的に判断でき、より理解が深まり、外国人に対しても恥をかかずに日本のことを紹介できるのではないかと考えました。(神田外語大学、4年、男性)
	私たち日本人よりも、外国人がより日本文化を理解していることは嬉しいことでもあり、哀しいことでもある。日本人の文化の関心がなくなってる今、外国人と共有できるように、日本文化の理解度を日本人も持つべきだ。私たちの日常に古い日本文化が残っていることは少ない。しかし、今の日本には、現代的な文化が残っている。着物を着る文化が、祭りなどで着る浴衣になっていたりする。日本文化そのものは残っていないくても、形だけは残っている。したがって、私たちの生活の中にある日本文化を深く知り、外国人に伝えることはできるのではないだろうか。(長崎外国語大学、1年、女性)
西洋から日本に影響を与えたもの、そして東南アジアの国々へ…英語に入っていた日本語もいくつかある中で、英語じゃない英語も知り、英語を使用する際に気を付けようと思いました。また、漫画・アニメ等といった日本のポップカルチャーの影響力は本当に凄いと日々外国の友人との交流を通じて実感しています。最後にあった、英語によるオンライン社会で使われる日本語で、『thank you very much』は冷たく感じるから『doumo arigatou gozaimasu』がかわいい!というのが面白いと思いました。(東京外国語大学、4年、女性)	
英語で日本の歴史や文化を学ぶという発想がなかったので、とてもAndrew先生の授業は新鮮でした。天皇、幕府、のり、わかめ、こんぶなど英訳に難しい言葉で日本語ですら上手く説明ができない言葉もあるので改めて日本の文化や歴史を勉強したいと思います。そして、通訳ボランティアの際に海外の人に質問されたときに自信を持って答えることができるように、質の高い通訳ボランティアになりたいと思いました。(名古屋外国語大学、2年、女性)	
講義の写真	

【8/25(火)】異文化の理解	
講師名	Yoko Zetterlund (ヨーコ・ゼッターランド) 先生
経歴	1992 バルセロナ五輪 銅メダリスト (女子バレーボール アメリカ代表) 2020東京オリンピック・パラリンピック組織委員会 理事 日本体育協会 理事 嘉悦大学 准教授、女子バレーボール部 監督 有限会社 オフィスブロンズ 取締役社長
講座内容	2020年東京オリンピック・パラリンピック開催が決定し、海外からの注目度が高まっています。観光客の増加が見込まれ、経済効果が期待されると同時に、日本の更なる「グローバル化」が求められるようになってきました。スポーツ、そしてオリンピックを通じて「人のグローバル化」とは何かを本講義では考えていきます。
受講生からの感想	アメリカでは個人の主張が強く、アイデンティティが明確である。日本では全体のバランスを考え、相手の意思をくみ取ることも重要。国境を超える、国際交流という点においてスポーツは素晴らしい。ただその中にはお互いをリスペクトすることが大事。スポーツだからこそできるのは相手の温度を知ることができること。実際に対戦をして国をかけて戦っている熱意を感じることができる。(関西外国語大学、4年、男性)
	自分の、人種から起こった体験話選手になるきっかけを詳しく教えてくださいよかったです。人は見かけでは決められず、白人の顔をしていても日本語しか喋れない人などはたくさんいます。ボランティア活動をするさい相手に迷惑や不快感を感じさせないように注意して行動しなければいけないと思いました。また、選手になるきっかけが唐突だったので、この先なにが起こるか分からないのだなと思い、今後何事にもチャレンジしたいと思いました。そして、食をしっかり学んで日本人として日本食についてしっかり説明できるようになりたいです。(京都外国語大学、1年、女性)
	色々な苦難を乗り越えてオリンピックに何度も出場したヨーコゼッターランド先生の経歴のお話はとても興味深かった。外国に行くべきことはその地のエネルギーを得るためにその場所で育ったものを食べるということに共感した。先生がおっしゃるように、世界中どこへ行っても「Respect Each Other」の精神を忘れずに過ごしたいと思う。(神戸市外国語大学、1年、女性)
	これからオリンピックを迎え、たくさんの外国人を迎えるにあたって日本人が他の国の事情や背景をくみ取りコミュニケーションをとれるようにしていかなければなりません。先入観なく相手の本質を見ることが大切になってくるので語学を学んでいるからこそ日本人と外国人が理解しあう架け橋のような存在にボランティアなどをつうじてなりたいです。(神田外語大学、3年、女性)
	英語が話せていても3ヶ月間話さなくなるだけで、すぐに話せなくなってしまうようで、私も留学に行っても話せるようになって、毎日使わないと話せなくなってしまうので、毎日使いたいと思います。外国の文化も知ることが大切なことがわかりました。外国の食べ物を食べるなど、食を共有することは大切なことを教わりました。(長崎外国語大学、1年、女性)
	異なる文化を持つ人とコミュニケーションをとるときには、やはり気をつけなくてはいけないことが色々ある。それでも、文化の違いを理解し、お互いを尊重する気持ちがあれば、良い関係を作ることは十分に可能だと思う。(東京外国語大学、2年、女性)
「目に見えないもので何を残すか」、「人のアドバイスも大切だけれど、自分の意見も大切にすべき」という言葉が印象に残っています。また、「海外の人への配慮が故に、向こうに合わせてしまい、ありのままの日本では無くなってしまおう」という言葉に共感しました。(名古屋外国語大学、4年、女性)	
講義の写真	

【8/25(火)】アドベンチャー実技	
講師名	市瀬 良行先生、江川 潤先生
経歴	<p>◎市瀬 良行先生            神田外語大学体育・スポーツセンター准教授・マネージャー            千葉県ラグビーフットボール協会理事（大学委員長、女子強化、他）            日本体育学会、日本ラグビー学会、日本野外教育学会 会員</p> <p>◎江川 潤先生            神田外語大学 体育・スポーツセンター 特任講師            順天堂大学在学中に野外教育と出会い、専門的に学ぶため筑波大学大学院に進学。            現在は言語習得、コミュニケーションスキルの向上の為の野外教育の効果を検証中。            健康運動指導士、SAJスキー準指導員、体育学修士</p>
講座内容	<p>神田外語大学で行われている「アドベンチャーコミュニケーションプログラム」とは、イギリスのサバイバル学校で行われていた冒険活動プログラムを基に、学校教育へ適用するよう、より身近で安全に体験できるようにアメリカで開発されたものがアドベンチャープログラムです。このプログラムをベースにコミュニケーションに焦点を当て、神田外語大学でプログラムされたものが「アドベンチャーコミュニケーションプログラム」です。現在、体育授業のみならず、神田外語大学のユニークで教育的価値の高いプログラムとして様々なスタイルに応じて展開しています。今回、通訳ボランティア育成セミナーに参加する学生に新しい学びを提供するものである。</p>
受講生からの感想	<p>グループごとに分かれ、それぞれのアクティビティを通して、体験学習サイクルを体感することができた。課題に失敗するたびに、どうして失敗したのか、それを踏まえて、どうやったら成功するのかを、グループのメンバー全員で協力しながら考えて取り組むことができた。この活動を通して、振り返りの重要性を学ぶことができた。また、グループのメンバーとの仲も深めることができた。（関西外国語大学、2年、女性）</p> <p>最初は、通訳ボランティア育成セミナーなのにどうして実技をするのだらうと思っていましたが、実際に試してみ、グループの人と協力しあって課題をクリアしていくうちに、他大学の子と仲良くなることができ良かったです。（京都外国語大学、1年、女性）</p> <p>通訳と関係あるのか、？という感じのまま参加し、活動をしたり、通訳との関係の説明を聞いてもこれは必要なのか、と疑問は消えませんでした。しかし終わったときグループ内の一体感や、その後会った時にも友人としてお話が出来たので人間関係の構築という意味で通訳者として必要な技能なのかなあと納得しました。座学が多かったので身体を動かすことでリフレッシュ出来ました。純粋に楽しかったです。（神戸市外国語大学、1年、女性）</p> <p>集団で何かを目指し作りあげる練習を身体と頭を使って行った。外での人との触れ合いがとても新鮮で、解放的な楽しい作業だった。一人一人がお互いに名前を覚えたり、人に分かりやすく伝える表現力と発信力が必要であるという事、協調性を持ってチームワーク力を高める事などの大切さと難しさを学びました。様々なキャラクターを持った人同士が集まれば難しい課題も出てくるが、言葉をかけながらお互いに助け合う様子があるか否かで場の雰囲気も変わってくるのだと感じた。（神田外語大学、4年、男性）</p> <p>この実技の授業では他の大学の方々と交流を深める絶好のチャンスでした。わたしたちのグループの人たちは私も含めみんなが人見知りをしてしまい、自己紹介の時点では重い雰囲気だったのですが、いざアクティビティが始まるとみんながそれぞれ自分の意見を出し合いとてもいい雰囲気になりました。これを通してみんなと仲良くできたのでとてもいい経験になりました。（長崎外国語大学、1年、女性）</p> <p>色々な人と協力しながら課題に取り組むと、視野が広がる。私は人と一緒に行動するのはあまり好きではないのだが、得るところがあるのも事実なので、その点に関してCゾーンからストレッチゾーンに踏み出して、自分の成長を図りたいと思う。（東京外国語大学、2年、女性）</p> <p>初めてこのようなタイプの体育を受けました。最初は通訳セミナーでなぜ体育をやるのか不思議に思っていたのですが、やっていくうちその理由がよくわかりました。一つのことを達成するために、みんな協力し、意見を出し合い、コミュニケーションをとることで、なんでもできるということを体験しました。（名古屋外国語大学、4年、女性）</p>
講義の写真	

【8/26(水)】スポーツと言語教育におけるグローバル人材育成	
講師名	朴 ジョンヨン先生、長谷川 信子先生
経歴	<p>◎朴 ジョンヨン先生 2011年 筑波大学大学院人間総合科学研究科博士前期課程修了（体育学） 2012年～神田外語大学体育・スポーツセンター専任講師 2015年 筑波大学大学院人間総合科学研究科スポーツ健康システム・マネジメント専攻 非常勤講師</p> <p>◎長谷川 信子先生 神田外語大学外国語学部教授 米国の大学院よりTESL（第2言語としての英語教育）でMA、言語学でPh.D.取得。 米国の大学で数年間、言語学&amp;日本語を教える。日本人向けの観光ガイド・通訳の経験あり。 現在は、言語学、英語学だけでなく、日本の英語教育全般についての考察を深めている。</p>
講座内容	<p>◎朴 ジョンヨン先生 東京2020オリンピック・パラリンピック開催が決定して以来、国内・外におけるスポーツ国際大会は増加の傾向にあります。大会円滑な運営には言語・コミュニケーションの分野が大きな課題であり、外国語が使えるボランティアの存在は必要不可欠です。国際大会における通訳ボランティア経験を通じて学生の言語運用能力や語学学習意欲の向上を図る取り組みを進めてきました。外国語を日常的に使用できる環境にない日本の学習者たちにとって、責任を伴う形で外国語を使う体験は、さらなる高度な言語能力獲得への大きな動機付け、学習意欲の向上につながっています。この講座では、その取り組みについて概説し、後半の部分では実際参加した学生を交え、活動内容をご紹介します。</p> <p>◎長谷川 信子先生 日本語と英語は言語体系が大きく異なり、「伝える内容」は同じでも、それを表現する形式には大きな違いがあることが多いです。伝える内容と伝え方の両面から、「会話する」「通じる」「伝える」といった言語活動に、各々の言語の特徴がどのように現れているのかを考えます。母語（日本語）の特性に気付くことが、英語の表現への意識を高めることにつながります。</p>
受講生からの感想	<p>先生の海外研修制度の重視項目がとても似通っているという先生の指摘は、本当にその通りだ、と気づかされました。グローバルな視点、異文化コミュニケーション、モチベーション、語学、主体的な行動、精神的なタフさ、などの強化が必要ということが重要視されているということを知り、自分にかけている必要なものは何かということ考えることができました。なによりも、朴先生の熱意がとても伝わりました。（関西外国語大学、2年、女性）</p> <p>「SPACE」や「TIME」「語学力+a」などです。中でも「TIME」のお話には関心しました。私はやりたいことがあるけど時間が足りない、今やらないと今後出来なくなるかもしれないと困っていました。そんな時朴先生が人生を時計にして考えてみてくださいというお話をしてくださいました。確かに時間軸で考えると私はまだ朝の5時半くらいで一日のスタート地点に立つくらいなんだなと思いました。まだ準備をする段階なので本番はこれからだと思いました。まだまだ時間はたくさんあるのだからもっと時間を有効的に使っていきたいなという風に感じました。（京都外国語大学、2年、女性）</p> <p>スポーツとはコミュニケーションであり、人間の生の労働のため、遊戯したいという基本的な欲求を典型的に表しているものだと思えることができ、スポーツの意外な一面も知ることができました。（神戸市外国語大学、1年、女性）</p> <p>グローバル人材になる条件というお話しが最も印象的だった。グローバル人材になる条件として、「前にある障害物を1つずつ乗り越えていく。けれど、諦めなければゴールに必ずたどり着く。」という言葉があり、自分の行動に実際に移していかなければならないと改めて感じた。（神田外語大学、2年、女性）</p> <p>スポーツ界の中で通訳をする場合、グローバルな人材が求められる。また、スポーツをする上でもグローバルな人材が求められるのではないのかと感じた。「ホモ・ルーデンス」：人間には生の労働のほか、遊戯したい基本欲求が存在し、その欲求が典型的に表れているもの、それがスポーツである。スポーツの要素として遊戯、競争、プロフェッショナルがある。グローバルイゼーション=国境を越えた関わり、やはりグローバルな人材が必要とされている。（長崎外国語大学、2年、女性）</p> <p>セミナーを受けて自分が思っているよりも、与えられたチャンスがあることを知れた。しかし、ただ言語を使えるというだけでは不十分であること知り、これから自分たちに求められていることが何であるのか明確になったように感じた。また、globalとinternationalの違いを知ることができて良かった。（東京外国語大学、2年、女性）</p> <p>スポーツとは何だろうという問いかけから、グローバル人材において幅広く学ぶことができた。とりわけ印象に残ったのは、スポーツ選手とグローバル人材の共通点として、語学力・コミュニケーション力、主体性高い目的意識などがあるということである。近年、日本からも多くの日本人サッカー選手が欧州のリーグに挑戦している。しかし、「言葉の壁」によってその選手の本来の力を出し切れないこともあるだろう。改めて、言葉の大切さを理解することができた。講義では、学生ボランティアではあるものの、そこにかかる責任の大きさを学んだ。また、言語学的観点から、日本語と英語の違いについても知ることができた。講義は時間も限られていたことから、限られたトピックしかお話を伺うことができなかったが、もう少し聞きたかった。（名古屋外国語大学、4年、男性）</p>
講義の写真	

【8/26(水)】 [BASIC]世界の英語とロールプレイ演習	
講師名	矢頭 典枝先生
経歴	東京外国語大学大学院博士後期課程修了。博士（学術）。 単著に『カナダの公用語政策』（リーベル出版）、共著に『多様社会カナダの「国語」教育』（東信堂）、『はじめて出会うカナダ』（有斐閣）、『現代カナダを知るための57章』（明石書店）、『カナダを旅する37章』（＼＼）など。 専門は社会言語学・カナダ研究。
講座内容	日本における一般の英語教育では、アメリカ英語が教えられていますが、今日、様々な国から外国人の教員が来日し、英語を教えています。彼らの出身国によって、英語の発音だけでなく、単語も異なることがあります。こうした状況を踏まえ、神田外語大学は東京外国語大学と共同開発で、「世界の英語の違い」を学ぶ無料ウェブ教材を開発しています。本講座では、この教材を使い、アメリカ英語だけでなく、TOEICのリスニングの問題でも使われるようになったイギリス英語、オーストラリア英語、ニュージーランド英語、カナダ英語を聴き、その違いを学びましょう。最新版のシンガポール英語も聴きましょう。
受講生からの感想	なまりや独特な言い回しがある世界各地の英語を知り、様々な地方の英語も勉強したいなと感じました。特にシングリッシュはなまりがきついたので、聞いてて驚きました。（関西外国語大学、1年、女性）
	たくさんの国の音声を聞けて、すごく魅力的でした。サイトも教えて頂き、使ってみようと思います。正直シンガポールの言葉はあまり聞き取れなかったですが、オリンピックにはどこの国の人が来て、いつどのタイミングでお話をするかわからないので、どこの国の方の言葉も聞き取れるようになることを目標に頑張りたいです。（京都外国語大学、1年、女性）
	矢頭先生の講義では、カナダやニュージーランドなどの普段あまり触れることのない英語の特徴を詳しく教えていただきました。通訳をすると、色々な英語に触れることになると思います。そのとき自分が話せなくても聞き取ることができれば、通訳にはとても役立つと思います。各国の英語の差異が誤解を生むこともあると思うので、今回学ぶことができて良かったです。（神戸市外国語大学、2年、女性）
	世界中にはさまざまな母国語訛りの英語が存在します。今や世界の共通語である英語と言われていますが、この英語にもさまざまな英語があり、時には理解しづらい英語のときもあります。私達が2020年の東京オリンピック、パラリンピックでボランティアをする際、この状況に必ず出くわすと思います。その際、世界に英語における知識をもっておくこと、さまざまな訛り英語に慣れ親しんでおくことで、難なくこなせるだろうと感じました。まずはシンガポール英語やスペイン英語になれ親しむため、聞いていこうと思いました。（神田外語大学、2年、女性）
	私は今まで、アメリカ英語とイギリス英語は単語の違いだけかと思っていました。しかし、単語の違いだけではなく約9種類もの発音の違いがあると知りました。またそれはアメリカやイギリスに限らずオーストラリアやカナダ、シンガポール、ニュージーランドなど英語を主流とする国々でも独自の発音があると知りました。英語が話せるようになるにはこれらの特有の発音や表現も知っておく必要があると思いました。（長崎外国語大学、1年、女性）
	私はTUFS言語モジュールを利用していますが、世界の英語モジュールというプログラムがあることを知らなかったので、今回の講義で使用方法やコンテンツを知ることができたので、今後活用していきたいと思いました。「英語」と一口に言っても、様々な英語が存在するので、興味深いと思いました。（東京外国語大学、2年、女性）
	実際にその言語の動画を見ることで改めて各国の英語の違いを知ることができました。アメリカンイングリッシュを重点的に学びたいと思っていましたが、ほかの英語も知っていききたいです。（名古屋外国語大学、2年、女性）
講義の写真	

【8/26(水)】 [INTERMEDIATE]通訳の技法・スキル	
講師名	小坂 貴志先生
経歴	神田外語大学外国語学部教授 Former Assistant Professor at Graduate School of Translation and Interpretation, Monterey Institute of International Studies
講座内容	<p>翻訳・通訳の基礎を紹介します。翻訳・通訳とは何かについて、ジャンル（例、文芸翻訳、技術翻訳）という観点で分類する翻訳、モード（例、同時通訳、逐次通訳）で分類される通訳について、それぞれどのようなジャンル、モードがあるかを説明します。その上で、本プログラムの通訳ボランティアに求められる姿勢や技能について、講義者の経験も踏まえながら解説していきます。通訳に焦点を当てて、訓練法についても考察します。</p>
受講生からの感想	<p>この講義では、同時通訳、逐次通訳、ウイスパリング通訳やリレー通訳など様々な通訳に関する知識を学んだ後、音読、リピート、シャドウイングやリテンションなど実際の訓練法をグループで実践した。英語で聞いた内容をいかに速く、正確に、自分が後で読んだ時に理解しやすいようにメモできるかという点が非常に難しく、これから個人的に練習、訓練をしていきたいと思った。（関西外国語大学、4年、女性）</p> <p>自己紹介を通じて身近に通訳の練習をすることができるアクティビティーを体験した。終始グループになった人たちとも笑顔になりながら、楽しむことができた。京都に帰ってからも実践したい。（京都外国語大学、3年、女性）</p> <p>通訳にもさまざまな種類があり、それぞれ練習方法があると気付きました。ロールプレイをして、通訳をする難しさを実感しました。とても疲れました。人の話をよく聞いて、英語もしくは日本語に直すときに自分のボキャブラリーの少なさに気付いたり、どう訳せばいいのか困惑したりしました。ノートテイキングが大事だと思いましたし、その方法も自分なりのものを考えて、時間短縮する必要があると感じました。実際に体験してはじめて気づくことだらけでとても良い勉強になりました。（神戸市外国語大学、3年、女性）</p> <p>実際にデモンストレーションを行いながら、通訳の種類についてまなびました。通訳も同時通訳だけではなく、翻訳、少し遅れていく通訳、一回英語にやくして、そこから各国の言語に直していく通訳の存在も知りました。さらに、通訳を行うにあたり、メモを取っていくことの大切さを学びました。そのメモも日本語なのか、英語でとるべきなのか、ということもまなびました。実演もあり、input outputがきた授業でした。（神田外語大学、4年、男性）</p> <p>私は通訳ボランティアをした経験はあるが、技法をしっかり学んだことがなかったので、学ぶことが多くあった。通訳をするためには、ノートテイキングがとても重要になってくる。この授業では3人1組になり実際に相手が話したことを英語に訳したり、日本語を英語に訳したり、同じグループの人々とコミュニケーションを上手くとりながら通訳の体験をした。その際、今まで多少苦手意識のあったノートテイキングのコツを掴むことができ、苦手意識を克服できたように感じた。小坂先生がおっしゃったように、ノートテイキングは回数を重ねれば重ねる程、自分のやりやすい方法を見出しその行為に慣れることができるということがわかったので、今後の生活の中でも誰かの会話やニュースなどを聞く時にノートテイキングを行い、自分に合った方法を見つけていきたい。（長崎外国語大学、3年、女性）</p> <p>ワークシート⇒実践形式の講義でとてもわかりやすかったです。通訳ならではのノートテイキングや、通訳の訓練法をすべて、英語に限らず日本語でも何でもやることで頭の作りが変わってくるそうなので、講義以来シャドウイングやリテンションなどを家で練習しています。講義内で行った実践は、実際にやってみると難しいことがよくわかり、英語が読める・話せるのと同時通訳が出来るというのはまた違った才能なのだ、ということに改めて実感しました。（東京外国語大学、4年、女性）</p> <p>通訳に関する基礎知識を学ぶことができました。実践がとても楽しく、時間がとても短いと感じるほどでした。他大学の学生との交流にもなり、良かったと思います。（名古屋外国語大学、4年、女性）</p>
講義の写真	

【8/26(水)】医療・メディカルに関する知識	
講師名	水野 里香先生(BASIC)、中村 春木先生(INTERMEDIATE)
経歴	<p>◎水野 里香 アメリカの高校・大学・大学院卒業 米国企業、在米日本企業に勤務するかたわら、日英通訳・翻訳業に携わる 鍼灸マッサージ師国家資格・教員資格取得 アメリカ鍼灸資格試験合格 現在鍼灸治療院開業、セラピスト英会話講師、医療関係翻訳に携わる</p> <p>◎中村 春木先生 国際医療通訳アカデミー専任講師 八王子国際協会医療通訳委員理事 通訳案内士（英語） 米国ユニオン大学院 医学博士</p>
講座内容	<p>◎水野 里香先生 スポーツの場面に医療は欠かせないものです。スポーツ関係の通訳をするにあたり、知っておきたい基礎的な医療知識や、選手に傷害が起きた時の対処法・治療法について理解を深めます。また選手と医療関係者の間に入り対応する場合に使える日英医療専門用語・表現法を学びます。スポーツ通訳として実際に遭遇するであろう状況を想定し、学んだ単語や表現法を使って演習も行います。</p> <p>◎中村 春木先生 身体の骨格と筋肉の概要構造を図で説明後、関連用語と表現を資料を基に説明します。最後に腰痛に関する医師、患者、通訳者の会話例を説明し、医療通訳の実践を解説します。時間が余れば代表者に練習していただきます。</p>
受講生からの感想	<p>難しい専門用語ではなく、分かりやすく易しい英語に言い換えるということを学んだ。たくさんの体の部位や筋肉や骨の名前、また、症状や痛みの種類や質問の仕方などの言い回しを知ることができた。また、例として、ラマダーンの時には薬すら飲むことができないこともあると聞き、相手の文化、宗教などの背景知識を勉強することが必要になってくるのだなと思った。（関西外国語大学、2年、女性）</p> <p>この講義は通訳ボランティアをする時だけに役に立つのではなく、日常生活にも役に立つと思いました。オリンピックにボランティアをするのであれば医療のことばは必要とするのは当たり前だが、海外に行くときにこの講義で学んだ知識がとても役に立つと思います。それに、この講義で医療の単語を学んだだけではなく、医療会話も勉強しました。（京都外国語大学、4年、女性）</p> <p>スポーツには怪我は付き物である。私もスポーツをしてきた身としてよく承知している。通訳ボランティアとしてスポーツ大会に関わる時に必要な医療用語の英語を今回の授業で知れてとてもよかった。知らない単語が多かった。怪我は選手生命に関わることで、選手のそばでボランティアとして活躍するために責任をもって医療英語を覚えておきたい。（神戸市外国語大学、1年、女性）</p> <p>初めて実際にPCの機材を使ってシャドウイングにチャレンジし、リプロダクションとパラフレージングを行いました。内容はこれまでの講座の中でも最も難易度が高く、実際にやってみると不安になってしまふほどでしたが、結果として、自分が2020年を迎えるまでの課題がより明確になる非常によい機会となりました。講座の中で学ぶのと実際にやってみるとではレベルが全然違っていました。一刻も早く自分自身の通訳スキルをあげていき、よりレベルの高い場で使ってもらえるようになりたいです。（神田外国語大学、4年、男性）</p> <p>私は今まで通訳は話者の話す内容を正確に全て訳すことだと思っていました。しかし、今回の講義を通して、通訳とは正確に忠実に訳すが大まかでもよく、日本語が自然であり、聞き手を待たせないことだと知りました。これから、様々なボランティアに参加しようと思っているので、通訳の練習は避けては通れません。そのためにシャドウイングやまずは日本語を聞いて主旨を言う練習をこれからやっていこうと思いました。（長崎外国語大学、1年、女性）</p> <p>たくさんの英単語を教わった。私は将来医療的な方面に関わりたいと思っているので、これらを覚えると役に立つと思う。宗教によって薬が服用できないこともあるというのは、気をつけなくてはいけないと思った。（東京外国語大学、2年、女性）</p> <p>この授業ではスポーツ通訳として活躍する場合欠かせない知識でもあることを痛感させられた。痛いといっても痛みの程度の違いも言葉によってだいぶ違いが表れるように通訳という難しさが感じられた。幅広い知識を英語で取り入れられるよう幅広い教養がいかに重要か勉強できた。（名古屋外国語大学、1年、女性）</p>
講義の写真	

【8/26(水)】同時通訳演習から学ぶ技法	
講師名	柴田 バネッサ先生(BASIC)、曾根 和子先生(INTERMEDIATE)
経歴	<p>◎柴田 バネッサ先生 神田外語大学 英米学科 非常勤講師/ウィスパリング同時通訳研究会 代表/武蔵一族合同会社 代表通訳者/フリーの通訳者、通訳案内士</p> <p>◎曾根 和子先生 オーストラリア・クィーンズランド大学大学院で英日通訳・翻訳の修士号を取得。帰国後、フリーランスの通訳者になり、衛星放送の放送通訳者や会議通訳者として稼働。現在、大学で、通訳法、翻訳法の講座を担当。民間の通訳養成スクールでも顧問を務める。</p>
講座内容	<p>◎柴田 バネッサ先生 この通訳のトレーニングは他の語学教授法と違い、学習の早い段階からリテンションやクイック・レスポンス練習を行い、語学訓練と同時に学習者の記憶力、メモ取り技術、集中力なども強化していくという点です。トレーニングのメソッドは色々ありますが、それぞれ一つの目的と方法と評価基準を明確にして、何を強化するためにどのように学習をするかを知ることが目標としています。</p> <p>◎曾根 和子先生 アテンド通訳とは、来日された方が、気持ちよく滞在できるように、その方のコミュニケーションを支援する通訳で、移動、宿泊、食事、パーティ、見学、打ち合わせ等、様々な場面で、通訳を必要とする方の手助けをするのが主要な業務です。今回のセッションでは、アテンド通訳で求められる基本的なスキルを実践的に訓練し、良く使われる表現を、英語から日本語へ、日本語から英語へと、素早く訳出する能力を付ける事をめざします。</p>
受講生からの感想	<p>通訳をする際には、① input ② analysis &amp; memory ③ output の順番が大事だということを学んだ。通訳には分析するだけではなく、分析したものを頭に残す力も必要なのだなと思った。実際にパソコンを使って体験してみたが、思った以上に難しく、自分がどれだけ通訳というものを甘く見ていたのかということを感じ、同時に、自分の力はまだまだだということを実感した。通訳スキルを向上させる方法も学ぶことができたので、これから自分の能力を高めていきたいと思う。(関西外国語大学、2年、女性)</p> <p>通訳としては正確であることのほかに、聞いている人を待たせない、スピードなど求められる能力がとても高いということに驚きました。ボランティアとして力になれるようにもっと力をつけていきたいと思いました。今日から音読のスピード強化に努めます。そのためにはシャドーイングが効果的だと柴田先生はおっしゃっておいした。最終的には「聞きながら話す」この能力を身につけられるように頑張ります。(京都外国語大学、2年、女性)</p> <p>この授業では同時通訳の厳しさを演習を通して学びました。この演習で難しかったことは、正確な情報を短時間でメモ無しで記憶し、その後すぐに口に出して伝えなければいけないことです。通訳者が勝手に情報を変えてしまうわけにはいかないので、普段から様々なジャンルの英語について学び記憶しなければ、通訳者として適切な対応力に欠けるのだと思いました。(神戸市外国語大学、3年、女性)</p> <p>初めて実際にPCの機材を使ってシャドウイングにチャレンジし、リプロダクションとパラフレージングを行いました。内容は今までの講座の中でも最も難易度が高く、実際にやっていると不安になってしまうほどでしたが、結果として、自分が2020年を迎えるまでの課題がより明確になる非常によい機会となりました。講座の中で学ぶのと実際にやってみるとではレベルが全然違っていました。一刻も早く自分自身の通訳スキルをあげていき、よりレベルの高い場で使ってもらえるようになりますようにしたいです。(神田外語大学、4年、男性)</p> <p>私は今まで通訳は話者の話す内容を正確に全て訳すことだと思っていました。しかし、今回の講義を通して、通訳とは正確に忠実に訳すが大まかでもよく、日本語が自然であり、聞き手を待たせないことだと知りました。これから、様々なボランティアに参加しようと思っているので、通訳の練習は避けては通れません。そのためにシャドーイングやまずは日本語を聞いて主旨を言う練習をこれからやっていこうと思いました。(長崎外国語大学、1年、女性)</p> <p>実践的なワークを豊富に取り入れた講義だったので、楽しみながら学ぶことができました。通訳トレーニング法の一部に、大学受験時代にやっていた勉強法も含まれていたため、また復活して勉強しようと思いました。逐次通訳のトレーニングの独学は難しいと思っていましたが、今回の講義で自分一人で行うトレーニング法をたくさん教えていただいたので、早速毎日続けて実践していきたいです。(東京外国語大学、2年、女性)</p> <p>柴田先生の講義では、通訳の技法について学びました。通訳をするということは100%のことを訳さなくてはいけないと思っていたので、柴田先生の「100%を目指そうとしなくて良い」という言葉が印象的でした。講義で学んだ速読、シャドーイング、メモリーレースをして自分の英語のスキルを上げることができるよう努力したいと思います。講義で扱った通訳のノートの取り方は知らなかったため今後、通訳ボランティアなどをやる機会には活用したいです。(名古屋外国語大学、2年、女性)</p>
講義の写真	

【8/26(水)】プロ通訳から学ぶ通訳スキル	
講師名	椎名 純代先生(BASIC)、中曽根 俊先生(INTERMEDIATE)
経歴	クボタスピアーズ 通訳兼ファシリテーター/ Good Sport association 代表 スプリングフィールド大学にて修士号を取得。帰国後、一般企業を経て、J1川崎フロンターレ 育成・普及部の教育担当。 2013年スポーツの教育的・文化的価値向上を目指すGood Sport associationを設立。 ◎中曽根 俊先生 NHK衛星スポーツでのアメリカ3大スポーツ中継番組やCNNワールドスポーツでの翻訳・ボイスオーバー。2004年～2009年には、千葉ロッテマリーンズ球団でポビー・バレンタイン監督専属通訳。
講座内容	◎椎名 純代先生 昨年ひょんなことから“うっかり”ラグビーチームの通訳になってしまいました。語学力以外の経験が役に立っているな～と思うことが多くあります。それはどんなことか、またどのようなプロセス（キャリア）を経て通訳をするに至ったのか、そしてスポーツ現場の通訳として気をつけていることなどをお伝えしたいと思います。 ◎中曽根 俊先生 通訳とは、ただ単純に一つの言語を別の言語に置き換えるだけではない。言語の向こうに必ず存在する、特有の文化・習慣をできるだけ理解しておくことで、通訳をしたときにより良い成果を生むことが出来る。また、通訳をするために、正しい言葉の使い方を身に付けることも大切。普段の生活で少し気を付けるだけで、大きな違いが生まれてくる。通訳に大切なこと、それを身に付けるヒントをお話します。
受講生からの感想	中曽根先生の講義では、通訳としてのスキルや、スキルアップするための効果的な方法を教わりました。中でも5つのP(Perfect Preparation Prevents Poor Performance)という言葉は印象に残りました。また、正しい日本語を話すということも通訳をする上では非常に重要なのだと感じました。先生のお話の中で、「普段の生活から目に見えるものを自分の言葉で説明してみる。そうすれば自分の苦手な部分が見つかる。」というアドバイスを頂いたので、是非それを実践してみようと思いました。（関西外国語大学、4年、女性） 中曽根俊先生からは、野球、スポーツ通訳から見える世界。という題で、ご自身の通訳キャリアについて、非常にフランクに教えていただきました。通訳学校ではなく独学で、通訳法を学び、しかし目的が同じであれば結局は学習法も同じところに行き着く。や、語学だけを売りとするのではなく自身が特異、或いは熱中できるほどに好んでいる物事をも突き詰めていくことでそこに価値や技術が生まれることなど。中曽根さんからは実際の通訳の物腰と、苦勞話、努力のお話を聞くことができ職業としての通訳に対する理解が深まり、とてもいい勉強になりました。（京都外国語大学、4年、男性） 先生が通訳する際はその分野の単語帳を作っていると知り、驚きました。また司会を担当するときは、人の肩書にも細心の注意を払うと言っておられたのが印象的でした。通訳・翻訳と聞くと難しい単語ばんばん使って、しっかり訳さなければいけないのではないかと身構えていたのですが、先生が使う単語は簡単でもいとおっしゃっていたので少し安心しました。また失敗を歓迎し、反省し次に活かすことが大事だという言葉がすごく印象に残っています。あとは情報収集をきちんとすることを学びました。あいまいにしてしまうことが多いのですが、この姿勢をただし、自分の中に正しい情報を入れることを慣習化していきたいと思います。（神戸市外国語大学、3年、女性） 私は今回、中曽根俊先生の授業を受け、通訳のスキルをアップさせる方法を多く学ぶことが出来ました。今まで、多くの通訳を経験されたこともあって、かなり実践的な話を聞くことができました。通訳スキルアップ法の一つとして、正しい日本語ということがありますが、それが一番難しいことにはないか、と感じました。私は、日本人であるにも関わらず、頻繁に日本語の難しさを感じるがあります。日本語には曖昧な表現もあるので、そのことを考えつつ、英語+日本語の使い方についても今後考えていきたいです。（神田外語大学、3年、女性） 椎名先生はご自身のこれまでの成り行きや経験をもとに話してくれました。椎名先生の話はとても親近感が湧き私たちに自信を与えてくれるよな内容の授業でした。たくさんの海外経験をされており、ご両親の反対を押し切ってまで夢を追続ける姿はとても素晴らしいと思いました。私もこのような方になりたいと強く思いました。（長崎外国語大学、1年、女性） どのような成り行きでアメリカ留学し、現在に至ったのか、また現在の通訳の仕事についてたくさんの貴重なお話を聞くことができ、自分が目指す通訳の姿に向けて具体的にイメージを作ることができたように思います。（東京外国語大学、2年、女性） 椎名先生の貴重な経験のお話から通訳において心がけなければならないことや工夫を知る事ができた。通訳はコミュニケーションにおいて主役ではなく聞き手と話し手をつなぐ事が第一の役目であることを知った。その過程で相手にとってわかりやすい表現はもちろんその場の良い雰囲気を作るためにユーモアやジョークを入れることも大事になることを知った。（名古屋外国語大学、2年、女性）
講義の写真	

【8/27(木)】インバウンド・観光戦略の動向	
講師名	村山 慶輔先生
経歴	株式会社やまごころ 代表取締役 インバウンド（訪日観光）ビジネスコンサルタント 兵庫県生まれ。米国ウイスコンシン大学マディソン校卒。在学中、異文化交流に強い関心を持ち、20カ国以上を旅行。 2007年インバウンド観光情報サイト「やまごころ.JP」を開設。
講座内容	2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まり、今後ますます日本を訪れる外国人は増えていきます。日本には富士山をはじめとして世界に誇る観光資源がたくさんありますが、外国人観光客を呼び込む最高の観光資源は「人」です。世界中に日本のファンを増やしていくためには、高い志を持つ皆さんの協力が必要です。まずは外国人が日本をどう見ているのかを知り、今日からすぐに実践できる「おもてなし」を学びましょう。
受講生からの感想	マーケティングや経営を学びながら英語も勉強している私にとって、インバウンドに関する講義はとても面白かったです。日本に来る中国人またはアジア系の外国人に対する日本人の評価は悪いですが、その理由がわかったり、日本や日本人一人一人、特に私たちのような学生がどのように観光客に接していけばいいのかを考えさせられました。おもてなしという気持ちの面だけでなく、ビジネスの視点からも日本人としての在り方や自分の将来を考えるきっかけとなりました。 (関西外国語大学、4年、女性)
	顧客サービスについて最重要視する点が国によって異なるのは、Yoko Zetterlund先生の異文化理解で学んだ文化の違いに繋がっているなど感じました。月に一度買い物に来る日本人より年に一度の外国人観光客の消費額の方が圧倒的に高いことには驚き、現在の日本の経済が外国人観光客に支えられていることを再認識させられました。多様化する外国人観光客に対応するためには、まず見方や立場によって目線は様々であることを分かる必要があること、そして団体旅行より個人旅行が増加していることなど、現在起きている変化・課題に連携して取り組む重要性を一人でも多くの人が理解すればインバウンドの可能性はより大きく広がっていくと思います。 (京都外国語大学、4年、女性)
	今までインバウンド、観光戦略について考えたこともなかったので、先生お話すべてが新鮮で、とても楽しく聞くことができました。 まず、インバウンドにおいて大事な事は、日本人と外国人との認識の違いを埋めていくことが重要だということ、外国人目線にたつ、ということです。こちらからすると、マナーが悪いと思うことでも、外国人にとってはごく普通のことであり、それを理解しなければならぬと感じました。そして私が最も印象に残ったのが、「インバウンドの可能性は無限大」という言葉です。先生がおっしゃっていたように、地方のなんでもないものをパッケージ化し、値段をつければそれは商品になり外国人が訪れ活性化することもあり、可能性は無限大です。もっと視野を広げてみればできることがたくさんあるのだと感じました。 (神戸市外国語大学、1年、女性)
	インバウンド、観光戦略についてはなかなか触れる機会のない分野であったのでとても興味深かった。増大する日本への観光客は全ての産業においてチャンスであることを知り、オリンピックの効果は自分の予想しているものより遥かにすごいものなのだ気付かされた。観光客の多様性、外国人目線で考えることが必要とされているので語学を学んでいる私たちの能力を活かし、活躍できる場はこの分野にあるのではないかと考えた。この観光戦略についてとても興味が湧いたので調べていきたい。 (神田外語大学、2年、男性)
	日本と海外では視点が違うことをアンケート結果からも理解することができ、日本にいても外国人目線でおもてなしをしていくことが大事だと感じました。いくら日本にいるからといっても、相手は外国のお客様なので、相手の心に寄り添えるボランティア育成が大切で、私もそうなりたと思いました。 (長崎外国語大学、2年、女性)
	たくさんの観光客を呼び込むためには、戦略が大事だとわかった。日本人の英語力や外国人に対する苦手意識は問題である。しかし、私たち外大生が進んで引っ張っていくことができると思った。私は中国専攻なので、中国人にはもっと日本に来てもらいたい。 (東京外国語大学、2年、女性)
インバウンド事業に前から興味を持っていたので、様々なお話が聞けてうれしかったです。現在、日本の観光地で中国人観光客を見かけないことはありませんが、日本の観光業が中国人がいなければいけないと考えるほどだとは思っていませんでしたのでとても驚きました。日本人は国民性の問題で、他国の人を対応するのをどうしても避けてしまうというのは理解できますが、他の国からの観光客に依存しており、日本の製品に誇りを持ってそれが他国からの評価が高い以上、日本人から進んで自分たちのアイデンティティーを発信していくことが重要だと思いました。 (名古屋外国語大学、4年、女性)	
講義の写真	

【8/27(木)】ホスピタリティ検定3級講習	
講師名	野中 美木子先生(BASIC)、野口 幸一先生(INTERMEDIATE)
経歴	<p>◎野中 美木子先生 ホスピタリティ機構認定講師 元NHK甲府放送局アナウンサー 大学にてマナー講座、企業・自治体等でホスピタリティ講座を担当</p> <p>◎野口 幸一先生 ロンドン大学クイーンメアリー・カレッジ予備コース学生コンサルタント 明治大学リバティ・アカデミー講師 東京観光専門学校鉄道サービス学科教育課程編成委員 大学、自治体、社会福祉法人等でホスピタリティの講座を担当</p>
講座内容	<p>通訳ボランティアにはホスピタリティが必要です。ホスピタリティとは、相手を大切に思い、相手の立場に配慮することです。1人ひとりの個性や文化の違いを受けとめて敬う心が欠かせません。ホスピタリティ検定試験は、このような考えを具体的な言葉や行動に移すための工夫と確認事項で構成される試験です。講座では、受験対策はもちろん、ボランティア活動の現場でホスピタリティが実践できるように、ペアワークなども行います。</p>
受講生からの感想	<p>ホスピタリティの必要性を理解するとともに、ホスピタリティを発揮するために「自分のあり方」が大切だということを知ることができた。ホスピタリティを発揮するために、違いを受け止め、共感し共創するということが重要だと学んだ。あいさつや笑顔、言葉づかいの重要性も、実際に体験しながら学ぶことができた。また、話し方だけではなく、積極的な聴き方のポイントも学ぶことができたので、これから実行していきたいと思う。(関西外国語大学、2年、女性)</p> <p>現在、私はホスピタリティを求められるアルバイトをしているのですが、この検定を学ぶことはアルバイトやボランティア、そして人として必要なことだと思いました。座学だけではなく、ペアワークを実践的にできたのもよかったです。学んだことを活かし、まずは自分を知った上で、特にコミュニケーションで大切な態度、あいさつ、笑顔、話し方、身だしなみに気を付けていきたいです。(京都外国語大学、1年、女性)</p> <p>ホスピタリティの重要な点として、why的視点を持つことと肯定的な視点を持つことを先生があげてくださいました。実際にパートナーでいろいろなアクションをしていくにあたってこんなことされたら嫌だな、こうされると嬉しいなどということを実感できました。ホスピタリティはどんな場面でも必要であると感じたので3級の検定をとってみたいです。(神戸市外国語大学、1年、女性)</p> <p>ホスピタリティは相手の立場に配慮する思いやり、相手も自分も大切にできる人間尊重、違いを認めて受け止め活かす多様性の受容が必要であると学んだ。ホスピタリティは心で思っても、言語で表さないと伝わらない。私は心で思っても外に表さないタイプなので、表現しないといけないと感じた。また、目配り、心配り、気配りを発揮し、「違い」は個性、価値観の違いであって「まちがひ」ではないので、違いを受け止め共感し合うことが重要だと思った。(神田外語大学、1年、女性)</p> <p>日本という国は、ホスピタリティを大切にできる国です。ホスピタリティを発揮するためには自分のあり方が大切だという部分で、日本人には多少足りない部分があると思います。相手を思いやることに当たり前になってしまうと、周りに合わせるようになり自分という人間を見失いそうになります。日本人の特徴だと思います。自分意見、自己主張をよりできれば自分に自信が付き、相手を思いやる気持ちだけでなく、自分の意見を大切にすることができます。そうすると、日本のホスピタリティはよりよくなると思います。私はよりホスピタリティが溢れた日本に暮らしていきたいと思います。(長崎外国語大学、1年、女性)</p> <p>まずホスピタリティーとは何かから考え始めて、実際にペアを組んでどんなクレーン対応をしたらよいのかを考えて、クライアントが満足、信頼してくれる対応をしなければならぬことを学んだ。相手との関係構築も通訳の面では大切な役割を果たすことに気付いた。(東京外国語大学、2年、女性)</p> <p>ホスピタリティとは相手のために何かをすること、ホスピタリティ=おもてなしだと思っていましたが、ホスピタリティには自分の存在も重要で相手と自分の違いを認めて尊重し、相手のことを思いやるのがホスピタリティの考え方だと講義の中で野中先生は仰っていたので、私の中のホスピタリティの考え方が変わりました。ただ語学ができるだけでなくホスピタリティ溢れる、人と人の架け橋となる通訳ボランティアになりたいと思いました。その為にもホスピタリティ検定を受けてみたいと思います。(名古屋外国語大学、2年、男性)</p>
講義の写真	

【8/27(木)】アスリートから学ぶ人間力	
講師名	村田 亙先生
経歴	1968年福岡県生まれ。 元ラグビー日本代表。 現在、専修大学ラグビー部監督。 現役時代は、専修大～東芝府中～アピロン・バイオンヌ（仏）～ヤマハ発動機ジュピロで、スクラムハーフとして活躍。 元 7人制ラグビー日本代表監督。
講座内容	「道を切り拓く」～個の強みがチームとしての成果に～
受講生からの感想	先生の「Wata's eye」がとても心に響きました。「自分の強みを生かす」「On-offの切り替えが大事」「負けるが勝ち」「自分から道をひらく」「最初が肝心」「挫折は自分の成長に」「挑戦、謙虚、感謝」、すべて自分のモットーに当てはまるもので、これからもチャレンジ精神を絶やすことなく思う存分チャレンジしていきたいな、それは間違っていない、ということのを再確認できる講義でした。（関西外国語大学、2年、女性）
	村田先生のアスリートとしての経験談をお聞きすることができとても貴重な体験をさせていただきました。言葉が通じない国で、競技をするということに恐怖は感じさせられませんでした。言葉が通じなければ意思疎通は不可能だという観念を村田先生は変えてくれました。スポーツの素晴らしさを改めて感じました。（京都外国語大学、2年、女性）
	人間力があればストレッチゾーンやパニックゾーンに身をおいても何とかやっていけると思いました。はじめは大変なことや苦勞することも多いと思うのですが、その状況に屈せず、自分の夢をあきらめないこと、そのために努力を怠らないことが肝心なのだと思います。実際に海外に行きプレーし活躍したから分かることを聞いて、とてもよい機会でした。（神戸市外国語大学、3年、女性）
	けしてあきらめないこと、また不可能はないこと。あきらめたらそこで終わりということ学びました。語学、スポーツ、学習は似ていると思っていて、けして、人生においてよいことが起きるわけではありません。村田さんのようなすごい方でも、試合にでれなかったり、監督と合わなかったり、怪我に苦しんだりという挫折を経験しているからこそ、いまがあるのだと思いました。けして失敗しないことではなく、失敗してもいい、ではそこから学ぶことは何かと間がテイク事が大切だと感じました。（神田外国語大学、4年、男性）
	プロのアスリートとして第一線で活躍してきた村田先生の話を聞いて感じたことはスポーツに対する情熱が並大抵のものではないなということです。スポーツに真摯に向き合っているからこそスポーツ選手と胸を張っていえるのだと強く感じました。そのような人を支えるには自分も多くの知識を付けていかなければいけないと思いました。（長崎外国語大学、1年、男性）
	村田先生の競技生活から現在の監督に至るまでの経験をもとに、講義を聞いて言語が完璧にできなくても徐々にチームに溶け込んで、かつ活躍することができるということでコミュニケーションが大切な反面それだけではないことも学んだ。また、外国に行ったらその国のルールや慣習を受け入れていかなければならないことも改めて認識できた。専修大の入れ替え戦の映像を見て、やはりスポーツを通して一つにまとまることの素晴らしさを実感した。（東京外国語大学、2年、女性）
村田先生の講義は、本当に面白かったです。自分の全盛期だけでなく、挫折期のことも赤裸々にお話ししてくださって、人間性の良さを感じました。背が低くてレギュラーになれなくてもラグビーを続けたことさえすごいのに、その中で自分の強みを見つけてそれを活かし、フランスで活躍されたなんて憧れを抱きました。そして、負けたり失敗から学んで次に進むことは、成功し続ける人より何倍も成長できると教わり、失敗なんて恐れてはいけないし、どんどんいろんなことにチャレンジしてみようと思いました。（名古屋外国語大学、3年、女性）	
講義の写真	

## 5. セミナーの様子（写真）



